

●『イングランドのシティズンシップ教育政策の展開：
カリキュラム改革にみる国民意識の形成に着目して』

著者： 菊地かおり

発行： 東信堂 / 2018 年 2 月

価格： 本体 3,200 円＋税

判型： A5 判・上製、232 頁

ISBN：9784798914831



【内容紹介】

本書は、イングランドのシティズンシップ教育政策を分析対象として、国民意識の形成がどのように論じられてきたのかを明らかにしたものです。一見すると「シティズン」なのに「市民」ではなく「国民」？と不思議に思われるかもしれません。本書において鍵概念となるシティズンシップは「政治共同体の成員資格」と定義され、国籍、市民権、市民性といった多様な意味内容を含んでいます。つまり、文脈によっては「シティズン」は「国民」を意味する場合もあるのです。

シティズンシップは、国民／市民の境界の生成、維持、変容にかかわる概念として注目されてきました。教育研究においてはシティズンシップの「市民性」の側面、すなわち、社会・政治参加に着目されることが多いのですが、本書では「国籍」や「市民権」をめぐる議論に焦点をあて、教育政策を通じて国民／市民の境界がどのように創り出されてきたのかという点を分析しています。

興味深いのは、イギリス（UK/ Britain/ England）においては、帝国という歴史的背景から、国民の境界が曖昧にされてきたということです。1980 年代後半から始まるシティズンシップ教育政策をめぐる議論は、その定義の不可能性を詳らかにするところから始まります。揺れ動くシティズンシップを描き出すことで、「国民」の境界の恣意性や構築性を描き出すことも本書のねらいのひとつです。

〔構成〕第 1 章 帝国に由来するシティズンシップの特質

第 2 章 シティズンシップをめぐる共通認識の欠如

第 3 章 シティズンシップの明確化と人権との差異化

第 4 章 連合王国における共生に向けたシティズンシップ

【出版社の書籍紹介ページ】

<http://www.toshindo-pub.com/book/イングランドのシティズンシップ教育政策の展開/>

【著者紹介】

菊地かおり：筑波大学人間系助教。比較・国際教育学。主著に『岐路に立つ移民教育』（共著、ナカニシヤ出版）、『共生と希望の教育学』（共著、筑波大学出版会）など。